

宮平川氾濫対策を

答 引き続き浚渫工事を行なっていく



石垣 大志 議員



浚渫工事中の宮平川

問 宮平川氾濫対策を。緊急浚渫推進事業が令和7年度も引き続き活用可能な場合、活用していく認識で良いか。

都市整備課長 令和7年度以降も緊急浚渫推進事業債を活用し、引き続き浚渫工事に取り組んでいく。

問 宮平川については、令和4年度に堆積土砂を除去できたが、本年6月豪雨の際にも内水氾濫は発生をしている。抜本的な対策の状況について問う。

区画下水道課長 令和4年度に実施した国場川水系解析業務においての結果を踏まえ、現場の踏査を行い、地下埋設物や家屋、土地の利用状況などを調査し、浸水対策の検討を行っている。

問 過去の答弁で、宮平川の内水氾濫については5000立米の雨水を、貯めるか、逃がすかの対策が必要とのことであった。現在の検討状況は。

区画下水道課長 現在、委託中であるが、貯留管等の検討については当該地区は市街地になっており、家屋等が密接し

た状況で、道路が4m程度しかなく、なかなか現実的には厳しい状況ではある。新たに貯留池やポンプ施設などの検討も行っており、今年度方針を決めていきたい。

問 今後の取り組みとして令和7年度に雨水管理総合計画策定、8年度に認可に関わる設計、9年度に事業認可、10年度に詳細設計、11年度に対策工事の着手と考えるが、長期の取り組みとなる。

4年度で宮平川に堆積した土砂を全て除去はしたが、6年6月豪雨によって内水氾濫は発生している。今後も浚渫は確実に必要になってくる。

浚渫工事と同時並行で内水氾濫対策も行っていかなければならない。11年度工事スタートというところで今動いているのか。現在の見通しは。

区画下水道課長 議員説明の通り、令和11年頃の工事着手の予定としている。